

小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	2	施策名	子ども・子育て，若者への支援	
小施策コード	2-5	小施策名	困難を抱えた子ども・若者の支援	
小施策 主管課等コード	047600	小施策 主管課等名	男女共同参画青少年課	
評価責任者名	菅原 由紀		内線番号	6070
評価シート作成者名	藤村 淳		内線番号	6074

Step 1 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

現状と課題	少子化，核家族化などにより，子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化し，ニートやひきこもりなどが増加しているため，困難を抱えた子ども・若者が自立するための支援を行う必要がある。
取組の方向性	不登校，ニート，ひきこもりなど，社会生活を営む上で困難を抱えた子ども・若者を支援する。
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	若者
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	困難を抱えた若者が自立できる。

Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 子ども・若者に関する相談 回数（少年相談，（仮称）子ども・若者相談） (↑)	回	27	16	100	100

Step 3 市民ニーズの把握

平成 22 (2010) 年の内閣府調査によると、15～39 歳の「狭義のひきこもり」の全国推計数は 23.6 万人 (0.61%)、「準ひきこもり (普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出)」も加えての「広義のひきこもり」は 69.6 万人 (1.80%) にのぼる。

盛岡市の指定 2 地域を所管する全民生委員 19 名からの聴き取り調査結果を盛岡市の全世帯に換算すると、466 世帯に「狭義のひきこもり」が存在すると推計された。内閣府によると準ひきこもりと呼ばれるものは 1.19% の割合で存在するとされており、これらをあわせると市内には 2,000 名を超えるひきこもりが存在すると推計され、長期化を防ぐためには早急な対策が求められる。

Step 4 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	困難を抱えた子ども・若者支援のための社会資源の把握、相談窓口等の情報提供、支援者向け講座の開催・ネットワークの形成	40
	国・県・ 他自治体	支援機関の連携体制の構築 (子ども・若者支援地域協議会)	20
	市民・ NPO	ニート・ひきこもりへの対応を専門的に取り組んでいる民間団体による支援。	20
	企業・ その他	町内会、民生委員・児童委員等によるひきこもりの早期発見、早期支援。	20

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持 (現在の市の役割の比重を維持する)
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

(理由)

盛岡市子ども・若者育成支援計画の 10 年の計画期間が平成 27 年度から始まったところであり、庁内において事業を行う各部局と連携し推進を図る必要があるため。

また、困難を抱える子ども・若者への支援体制について、県が「岩手県子ども・若者支援地域協議会」の設置を検討しており、その動向を見ながら市で取り組むべき役割を検討する必要があるため。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

もりおかユース塾に子ども・若者の育成支援に関わる方が参加し、専門分野以外の社会資源や多様な支援方法について学んだ。

(2) 成果をあげた要因

子ども・若者に関係する様々な分野をテーマとしたため。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

子ども・若者への効果的に支援に結びつくよう、ユース塾内での受講者同士の情報交換やネットワーク形成のための仕掛けの検討

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

ユースネット登録団体数の伸び悩み。

(2) 現状の問題点が生じている原因

登録した団体へは市から情報を提供しているが、それ以外のメリットが少ない。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

団体登録が進むようなメリットの検討。

3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

なはんネットもりおかへの統合など、登録形態の検討。

Step 6 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

子ども・若者育成支援事業における「もりおかユースネット」に関する活動

2 1で記載した事業についてその理由

もりおかユースネットの登録団体数が伸び悩んでいるとともに、登録団体においてもネットワークの活用が図られておらず、目指している成果につながっていないと考えられるため。

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

もりおかユースネット登録団体が、盛岡くらしの相談支援室のネットワークへ参加することにより、困難を有する子ども・若者への相談体制の強化へつなげることや、登録後の利点内容の改善を図るため、なはんネットもりおかへの統合についても併せて検討していく。